

(資料提供)

令和元年11月15日(金)
県民文化スポーツ部文化振興課
直通：225-1371
内線：3841、3855

「時代で巡るいしかわの工芸展」の開催について

国立工芸館の開館を来年に控え、隣接する県立美術館や県立歴史博物館が連携して、石川の工芸の歴史を巡る特別展を「国立工芸館名品展」の開催期間に合わせて開催し、国立工芸館の移転と本県の工芸文化の魅力を発信します。

記

1 期間

令和元年11月17日(日)～令和元年12月22日(日)

2 主な内容

(1) 時代で巡るいしかわの工芸展

「いしかわの工芸の歴史」を切り口とした展覧会を開催します。

① 「古九谷と加賀蒔絵の至宝－百万石大名の自負」

世界的に注目度の高い「古九谷」と「加賀蒔絵」にスポットを当て、工芸史に残るような独自の様式を創出した藩主の高い美意識と、加賀藩の文化政策を再認識します。

会 期：令和元年11月22日(金)～12月22日(日)

会 場：石川県立美術館 第2展示室

② 「珠洲古陶－その歴史と美－」

珠洲焼は耐久性に優れ装飾性の高さが際立つ中世陶器です。近年は復興され石川を代表する工芸品としても注目されています。珠洲焼資料館をはじめ各地に保管されている優品を一挙紹介します。

会 期：令和元年11月17日(日)～12月15日(日)

会 場：石川県立歴史博物館

(2) 国立工芸館名品展「漆・木・竹工芸のみかた」

東京国立近代美術館工芸館が所蔵する作品を紹介します。今年は、本県が全国に誇り、数多くの著名な作家を輩出してきた漆工を中心に、木工・竹工作品を含む約50点を展示します。

会 期：令和元年11月22日（金）～12月22日（日）

会 場：石川県立美術館 第5展示室

(3) いしかわの工芸の歴史を巡る鑑賞ツアー

より深く工芸の歴史を理解していただくために、学芸員の解説付きで「東京国立近代美術館工芸館名品展」と「時代で巡るいしかわの工芸展」を巡る鑑賞ツアーを開催します。

日 時：令和元年11月30日（土）、12月1日（日） 各日13：00～

人 数：各回20名（当日先着順）

参加費：一般530円、大学生420円（団体料金）

※その他のイベントにつきましては、添付のリーフレットをご参照願います。

工芸巡りQRスタンプラリー

来年は国立工芸館が開館し、兼六園周辺文化の森に日本の工芸の全ぼうを一堂に会するエリアが完成します。一足先に金沢で工芸巡りをしてみませんか。

スタンプを集めて**国立工芸館開館グッズ**をゲット!



先着200名様に
金箔のしおりを
プレゼントします。

参加方法はとってもカンタン!

登録
不要

- 1 スマホ、タブレットにて現地に設置してあるQRコードを読み取る
※スマートフォン(ガラケー)ではご参加いただけません。
- 2 スタンプ【設置スポット】 ■石川県立美術館 2階受付 ■石川県立歴史博物館 第1棟 2階特別展示室入口
スタンプゲット 【景品引き換え場所】 ■石川県立美術館 1階総合案内

国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)

2020年夏、石川県立美術館といしかわ赤レンガミュージアムの間に国立工芸館が開館します。国立工芸館が数々の美術工芸作品とともに本多の森公園に移転することで、石川県立美術館やいしかわ赤レンガミュージアム、石川県立伝統産業工芸館などと合わせて、日本の工芸の全ぼうを一堂に鑑賞できるエリアとなります。



完成予想図

入館料割引実施! 11/22(金)~12/15(日)

対象施設の観覧券の半券を提示すると、対象施設の入館料が団体割引になります。
対象施設:石川県立美術館、石川県立歴史博物館、石川県立伝統産業工芸館、
金沢市立中村記念美術館
有効期限:鑑賞当日のみ有効(12/5木・12/6木は石川県立伝統産業工芸館 休館)



令和元年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

イベントスケジュール

11/17日	講演会「王朝の美・秋草文壺の世界」	13:30~15:00	石川県立歴史博物館	土曜講座「古九谷と加賀蒔絵」	13:30~15:00	石川県立美術館	
22金	ギャラリートーク	10:00~11:00	石川県立美術館	0才からのファミリー鑑賞会	14:00~	石川県立美術館	
23土	いしかわの工芸と食マルシェ(〜11.24日) (24日は16:00まで)	10:00~17:00	本多の森公園	ギャラリートーク	14:00~15:00	金沢市立中村記念美術館	
24日	伝統工芸ワークショップ	9:00~12:00 13:00~16:00	石川県立伝統産業工芸館	講演会&ミュージアムコンサート	13:30~15:00	石川県立歴史博物館	
27水	尺八とフルートのデュオ	14:00~14:30 16:00~16:30	石川県立美術館 石川県立歴史博物館	0才からのファミリー鑑賞会	10:00~	石川県立美術館	
30土	伝統工芸制作体験ワークショップ「丸谷漆のお皿に絵を描こう」	13:00~14:30 14:30~16:00	石川県立美術館	チェロとピアノのデュオ	13:00~13:30 15:00~15:30	石川県立美術館 石川県立歴史博物館	
	いしかわの工芸の歴史を巡る鑑賞ツアー(〜12.1日)	13:00~15:30	石川県立歴史博物館 石川県立美術館	14土	伝統工芸制作体験ワークショップ「珠洲焼でミニカップを作ろう」	11:00~12:00 13:00~14:00 14:30~15:30	石川県立歴史博物館
	ギャラリートーク	14:00~15:00	金沢市立中村記念美術館	22日	ギャラリートーク	11:00~12:00	石川県立美術館

兼六園周辺文化の森



※無料の文化施設共用駐車場がありますので、県立美術館・いしかわ赤レンガミュージアム・県立能楽堂・県立伝統産業工芸館にお越しの方はご利用ください。

ミュージアムミニコンサート 申込不要・無料

尺八とフルートのデュオ

- 日時/11月27日(水)
①14:00~14:30
②16:00~16:30
- 会場/①石川県立美術館
②石川県立歴史博物館
- 演奏/東海煌山氏(尺八)
安養美香氏(フルート)



チェロとピアノのデュオ

- 日時/12月10日(火)
①13:00~13:30
②15:00~15:30
- 会場/①石川県立美術館
②石川県立歴史博物館
- 演奏/富田祥氏(チェロ)
浅井隆宏氏(ピアノ)



お問い合わせ

兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会(石川県文化振興課)
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地 TEL. 076-225-1371 FAX. 076-225-1496(平日9:00~17:00)



時代で巡る いしかわの工芸展



「珠洲古陶—その歴史と美—」
■会場/石川県立歴史博物館
■会期/11月17日(日)~12月15日(日)
石川県指定文化財(珠洲 秋草文壺)(部分) 鎌倉13世紀 石川県立歴史博物館蔵

文化の森で工芸の歴史を巡ろう!



「古九谷と加賀蒔絵の至宝—百万石大名の自負—」
「東京国立近代美術館工芸館名品展 漆・木・竹工芸のみかた」
■会場/石川県立美術館
■会期/11月22日(金)~12月22日(日)
田口善国(日蝕蒔絵師箱)(部分) 1963年 東京国立近代美術館蔵 五十嵐道甫 重要文化財(秋野蒔絵師箱)(部分) 江戸17世紀 個人蔵

展覧会期間中は**工芸巡りQRスタンプラリー**を開催!

主催/兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会・石川県立美術館・石川県立歴史博物館 後援/北國新聞社

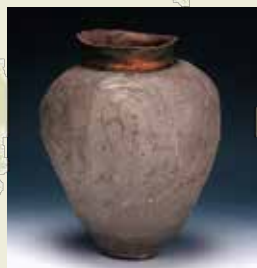
珠洲古陶

—その歴史と美—

珠洲焼は耐久性に優れ装飾性の高さが際立つ中世陶器です。近年は復興され石川を代表する工芸品としても注目されています。珠洲焼資料館をはじめ各地に保管されている優品を一挙紹介します。

- ◆会場／石川県立歴史博物館
- ◆会期／2019年11月17日(日)～12月15日(日)
- ◆開館時間／9:00～17:00(入館は16:30)
- ◆休館日／会期中無休
- ◆観覧料／一般300(240)円、大学生240(190)円
()内は20名以上の団体料金、高校生以下無料

《珠洲 綾杉文壺》(部分)
鎌倉13世紀 石川県立歴史博物館蔵



学芸員さんのイチオシ 石川県指定文化財《珠洲 秋草文壺》 鎌倉13世紀 石川県立歴史博物館蔵

壺の表面は4つに分割され、そこに枝垂柳(春)、萩(初秋)、薄(晩秋)などの季節を代表する植物が描かれており、平安時代から続く日本の美意識が感じられる作品です。

講演会「王朝の美・秋草文壺の世界」

申込不要・参加無料

- 日時／11月17日(日)13時30分～15時
- 講師／吉岡 康暢氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)
- 会場／石川県立歴史博物館 企画展示室
- 定員／80名

伝統工芸制作体験ワークショップ「珠洲焼でミニカップを作ろう」

要申込

- 日時／12月14日(土) ①11時～12時 ②13時～14時 ③14時30分～15時30分
- 会場／石川県立歴史博物館 ワークショップルーム
- 定員／各回10名(先着順)
- 料金／1,500円



内容：珠洲焼のミニカップに模様を付けてオリジナルの作品を制作します。
※作品は焼成後(約3、4ヶ月後)のお渡し(郵送希望の場合、送料別途)

●申込／兼六園周辺文化の森ホームページ内お申込みフォームから、または兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会(県文化振興課内)に電話(076-225-1371)

12世紀～15世紀 III 珠洲焼の歴史

珠洲焼は、平安時代末期の12世紀に誕生した日本を代表する中世のやきもの一つです。それは、古代須恵器の「窯へ焼き」と呼ばれる焼成技術を受け継ぐことから「中世の須恵器」とも言われ、灰黒色に焼しめられた堅牢で堂々とした豪快な造りと、櫛目文などのゆかしい装飾を駆使した様式美に特徴があります。

その製品は、人びとの生活に欠かせない壺・甕・播鉢を主力商品にして北東日本海沿岸域に販路を広げ、太平洋側の常滑・渥美焼と商圏を二分しました。しかし、戦国時代の15世紀末には、その主役の座を越前焼にとって代わられ忽然と姿を消しました。

本展では、そうした活力に満ちた珠洲古陶の歴史と美の系譜を辿るとともに、その再興に取り組む現代作家の作品も展示し、工芸王国石川の一翼を担ってきた「やきもの史」の一端を紹介します。

いしかわの工芸の歴史を巡る鑑賞ツアー

より深く工芸の歴史を理解していただくために、学芸員の解説付きで3つの展示会を巡る鑑賞ツアーを開催します。学芸員は展示作品についての豊富な知識を持ったプロフェッショナルです。この機会に興味深い工芸の歴史にふれてみませんか。これまで知らなかったことに出会えるかもしれません。

古九谷と加賀蒔絵の至宝

—百万石大名の自負

世界的に注目度が高い「古九谷」と「加賀蒔絵」にスポットを当て、工芸史に残るような独自の様式を創出した藩主の高い美意識と、加賀藩の制作体制を再認識します。

- ◆会場／石川県立美術館 第2展示室
- ◆会期／2019年11月22日(金)～12月22日(日)
- ◆開館時間／9:30～18:00(入館は17:30まで)
- ◆休館日／会期中無休
- ◆観覧料／一般370(290)円、大学生290(230)円
()内は20名以上の団体料金、高校生以下無料

石川県指定文化財
《青手桜花散文字鉢 古九谷》(部分)
17世紀 石川県立美術館蔵

学芸員さんのイチオシ 重要美術品《色絵畦道図角皿》 江戸17世紀 個人蔵

古九谷を代表する作品のひとつです。群青の線を畦道として、田畑を俯瞰したように見える構図には、モダンアートに通ずる新鮮さを感じますが、この意匠は、ぎずを上絵付けて隠すために生まれました。



土曜講座「古九谷と加賀蒔絵」

申込不要・参加無料

- 日時／日時：12月7日(土)13時30分～15時
- 講師／村瀬 博春(石川県立美術館担当課長)
- 会場／石川県立美術館 講義室

伝統工芸制作体験ワークショップ「九谷焼のお皿に絵を描こう」

要申込

- 日時／11月30日(土) ①13時～14時30分 ②14時30分～16時
- 会場／石川県立美術館 講義室
- 定員／各回15名(先着順)
- 料金／1,500円



※作品は焼成後(約2～3週間後)のお渡し(郵送希望の場合、送料別途)

●申込／兼六園周辺文化の森ホームページ内お申込みフォームから、または兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会(県文化振興課内)に電話(076-225-1371)

17世紀～18世紀 III 古九谷と加賀蒔絵の歴史

加賀藩三代藩主・前田利常は、17世紀半ばの日本において新しい芸術ジャンルであった色絵磁器に着目し、輸入品を収集するだけでなく、加賀の地での生産を奨励し、独創的な様式をもつ古九谷が生みだされました。

加賀蒔絵においても、利常は京都や江戸から名工を招聘し、芸術的な洗練度を追求した制作ができる環境を整備し、その結果、独自の様式を打ち出した蒔絵として、今日に至るまで伝統が継承されています。

加賀藩が文化振興に注力したことには、中世から近世における文武両道という武家文化の理想もありましたが、近世の幕藩体制において、文化によって藩の独自性を表明しようとする目的もありました。

本展では、そうした歴史的背景の中で生み出された古九谷と加賀蒔絵という「いしかわの工芸」の名品をご紹介します。

会場／石川県立美術館、石川県立歴史博物館
会期／2019年11月30日(土)～12月1日(日) いずれも13:00～15:30
人数／各回20名(先着順)

東京国立近代美術館工芸館名品展 漆・木・竹工芸のみかた

東京国立近代美術館工芸館が所蔵する作品を紹介します。今年は、本県が全国に誇り、数多くの著名な作家を輩出してきた漆工をはじめ、木工・竹工作品を含む約50点を展示します。

- ◆会場／石川県立美術館 第5展示室
- ◆会期／2019年11月22日(金)～12月22日(日)

松田権六《渚蒔絵検箱》(部分)
1960年 東京国立近代美術館蔵

学芸員さんのイチオシ 田口善国《日蝕蒔絵節箱》1963年 東京国立近代美術館蔵

田口善国による蒔絵の作品で、「日蝕」によって暗くなる周囲の様子に、驚くミズクが表されています。漆黒の中に、キラリと光る瞳が印象的です。作品の側面に施された、細やかな模様にもご注目ください。



講演会&ミュージアムコンサート

要申込・参加無料

- 日時／12月8日(日) 13:30～15:00
- 会場／石川県立歴史博物館 ワークショップルーム
- 講師／増村紀一郎氏(重要無形文化財「髹漆」保持者・東京藝術大学名誉教授)
- 演奏者／坂口昌優氏(ヴァイオリン)、渋谷優花氏(ヴァイオリン)、般若佳子氏(ヴィオラ)、福野桂子氏(チェロ)



- 人数／60名(応募者多数の場合抽選)
- 応募方法／往復はがきに住所・氏名・電話番号・応募人数を記載して下記まで(はがき1通につき2名まで応募可)
〒920-8580(住所不要)
石川県文化振興課「イベント」係 ※締切：11月22日(金)必着

19世紀～現代 III 近現代工芸の歴史

近現代において、「工芸」の在り方を問い直す、いくつものムーブメントが起きました。そうした動きの中で、「作家」は一つのキーワードといえます。工芸において、制作は分業制が主流でしたが、「作家」を意識することで、個人が一貫して制作するという考え方のもと、作品を制作する人々が登場するようになります。

漆工作家の松田権六もその一人です。過去の遺物や建物にみる技法や表現についても研究しながら、「今」という時代性を強く意識した制作の中に、その成果を反映させました。こうした姿勢は、田口善国をはじめとする多くの後進へ、そして現代の作家にも引き継がれています。

本展では、松田や田口といった過去の作家による作品と、現在の私たちと同時代に生きる作家の作品とを並べ、時代を超え親しまれる工芸の魅力をご紹介します。

集 合 場 所／石川県立歴史博物館 ワークショップルーム
お問い合わせ／石川県文化振興課 TEL.076-225-1371